科目名	小児看護学概論	対象学生・時期	1年生・後期	
		講義時間(単位)	15時間(1)	
講師名	①外部講師			
科目目標	1. 小児期にある対象を理解する 2. 小児看護の役割・機能を理解する 3. 母子保健、小児保健のあり方について理解する 4. 子どもの成長・発達について理解する 5. 子どもの権利を保障することの必要性について理解する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	小児看護の概念	1. 小児看護の対象と役割 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の役割形態的成長・発達 3) 健康の保持・増進のための看護の場と活動 4) 子どもと家族を取り巻く環境 2. 小児医療、小児看護の変遷 1) 小児医療、小児看護の変遷	講義	①
2	小児期における成長・発達の特徴と看護	1. 子どもの成長・発達 1) 成長・発達の概念 2) 形態的成長・発達 3) 機能的発達 4) 心理・社会的発達 5) 子どもの発達課題 2. 子どもと家族 1) 親子関係		
3		2) 家族理解とアセスメント (1) 家族の機能と構造 (2) 家族システム理論 (3) 家族ストレス対処理論 (4) 家族発達理論 3. 子どもに起こりやすい事故と予防 1) 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期・学生期 4) 思春期・自殺予防		
4	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護	1. 成長発達に応じた日常生活援助 1) 食の援助 2) 排泄の援助		

		3) 乳幼児期、学童期、思春期の子どもへの支援		
5	小児期における概論と理論	1. 成長発達に関する概念と理論 1) エリクソンの発達理論 2) ピアジェの認知発達理論 3) ボウルビィらの愛着理論 4) マーラーの分離個体化理論 5) 家族システム理論		
6	小児を守る法律と制度	1. 母子保健と小児保健 1) 小児の保健統計 2) 母子保健の動向 2. 子どもの事故防止 3. 子どもの感染症と予防接種		
7	子どもの最善の利益にかなう医療・看護	1. 子どもの人権と看護 1) 医療現場で起こりやすい問題点 2) 子どもをとりまく社会の変化 3) 子どもの権利に関わる法規 4) アドボカシー		
8	単位認定試験(45分)			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・小児看護学1 小児の発達と看護 メディカ出版			
備考	<参考文献> ・国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会			

科目名	小児看護方法論		対象学生・時期	1年生・後期	
			講義時期（単位）	30時間（1）	
講師名	①外部講師 ②外部講師				
科目目標	1. 子どもの成長・発達段階に応じた健康増進の看護について理解する 2. 健康障害が子どもや家族に与える影響とその援助方法が理解でき、その援助方法について理解する 3. 子どもに起こりやすい健康障害を理解し、子ども及び家族への看護の方法を理解する 4. さまざまな状況にある健康障害を起こした子ども及び家族への援助について理解する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	健康障害をもつ子どもと家族の特徴	1. 病気や入院が子どもに与える影響と看護 1) 病気・障害に対する子どもの反応 2) 健康問題をもつ子どもと家族の看護の方向性 3) 子どもの治療・健康管理にかかわる看護 4) 子どもの日常生活にかかわる看護 5) 活動制限を受ける子どもの看護 2. 病気や入院が家族に及ぼす影響と看護 1) 子どもの病気・障害に対する家族の反応 2) 健康問題をもつ子どもの家族の看護 3. 外来における子どもと家族への看護		講義	①
2	子どものアセスメントに必要な技術	1. 発達段階のコミュニケーションの技術 1) 伝える力 2) 読みとる力 2. プレパレーション 3. フィジカルアセスメント 1) バイタルサインの測定のアセスメント 2) 身体側定のアセスメント			
3	経過・症状に応じた小児と家族の看護	1. 症状をしめす子どもの看護 1) 不機嫌 2) 啼泣（涕泣） 3) 痛み 4) 呼吸困難 5) チアノーゼ 6) ショック 7) 意識障害 8) けいれん			
4		9) 発熱 10) 嘔吐 11) 下痢 12) 便秘 13) 脱水 14) 浮腫 15) 出血 16) 貧血 17) 発疹 18) 黄疸			
5	検査・処置を受ける子どもの看護	1. 説明と同意 2. 与薬・輸液管理			

		3. 検体採取 1) 採血 2) 検尿 3) 脊髄穿刺 4) 腰椎穿刺	講義	①
6	活動制限が必要な子どもの看護	1. 活動制限の目的・対象の子ども 2. 安静療法と治療による各部位の安静 3. 身体的、心理的、社会的影響とその看護		
7		4. 感染対策上隔離を要する子どもと家族の看護 1) 隔離の目的・方法 2) 隔離をすることでの子どもへの影響 3) 感染症の子どもへの援助と配慮 4) 感染症を持つ子どもの家族への援助		
8	小児によく見られる疾患と看護	1. 肺炎の患児の看護 2. 小児喘息の患児の看護 3. ファロー四徴症でB-T短絡術を受ける患児の看護		
9		4. I型糖尿病の患児の看護		
10	経過・症状に応じた小児の看護	1. 急性期の特徴 1) 急性期とは 2) 急性期の子どもと家族 2. 子どもと家族の看護 1) 生命維持・生体機能の安定 2) 安全の確保 3) 苦痛の緩和 4) 倫理的配慮 5) 家族への看護 3. 急性期疾患を持つ子どもの看護 1) てんかん 4. 手術を受ける子どもと家族の看護 1) 周手術期の特徴 2) 術前の看護 3) 術後急性期の看護 4) 術後回復期の看護	講義	②
11		5. 慢性期の特徴 1) 慢性的な経過をたどる疾患の特徴 2) 疾患による子どもと家族の生活変化 3) 学習支援・復学支援 4) 発達に応じたセルフケア獲得のための養育と支援		

		<ul style="list-style-type: none"> 5) 終末期における多職種チーム 6. 慢性疾患をもつ子どもと家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 糖尿病 2) ネフローゼ 3) アレルギー疾患 7. 終末期の特徴 8. 子どもの生命・死のとりえ方 9. 終末期のある子どもの看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 血友病 2) 白血病 3) 悪性新生物 <p style="margin-left: 40px;">(放射線治療・化学療法を含む)</p> 10. 子どもが終末期にある家族の看護 11. 子どもを亡くした家族の看護 	講義	②
12		<ul style="list-style-type: none"> 1. 重症心身障がい児と家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 障がいのとりえ方 2) 障がいのある子どもと家族の看護 2. 神経系疾患のある子どもの看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 脳性麻痺 2) 水頭症 3) 髄膜炎 4) 脳腫瘍 5) 筋ジストロフィー 3. 在宅療養中の子どもと家族の看護 		
13	経過・症状に応じた小児と家族の看護	<ul style="list-style-type: none"> 4. 救命処置が必要な子どもと家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 救急におけるトリアージ 2) 子どもの事故・外傷と看護 <p style="margin-left: 40px;">(誤飲、誤嚥、溺水、熱傷、熱中症)</p> 3) 子どもの1次救命処置 <ul style="list-style-type: none"> (1) アナフィラキシー 5. 健康障害をもつ新生児と家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) ハイリスク新生児の特徴 2) 集中治療における援助 3) 親子・家族関係確立への支援 		
14	虐待や被災した子どもの看護	<ul style="list-style-type: none"> 1. 虐待を受けている子どもと家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 子どもの虐待の特徴 2) リスク要因と早期発見 3) 虐待の未然防止に向けての支援 4) 他機関・多職種の連携・協働 2. 災害を受けた子どもと家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 災害による子どもへの影響 2) 災害を受けた子どもと家族の特徴と援助 		

		3) 災害時における緊急度の把握・ トリアージ 4) 災害時の子どもと家族の看護		
15	単位認定試験(45分) まとめ			
評価方法	筆記試験			
	<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護学1 小児の発達と看護 メディカ出版 ・小児看護学3 小児の疾患と看護 メディカ出版 			
備考				

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	小児看護学演習	対象学生・時期	2年生・前期	
		講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	①外部講師 ②教官☆			
科目目標	1. 子どもの特徴を踏まえ事例を通して看護過程が展開できる 2. 子どもに対する基本的看護技術の習得ができる			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	健康障害をもつ小児の事例について看護過程の展開	1. ガイダンス 1) 学習目標・内容・方法について 2) 小児の看護過程の特徴について 2. 受け持ち患児の疾患の病態生理 1) 事例紹介 2) 情報の整理と分析	講義 演習	①
2		3. 情報の整理と分析 1) データベース 2) ゴードン11機能パターン アセスメント		
3				
4		4. 関連図（全体像）		
5		5. 看護診断、優先順位の決定		
6		6. 看護計画立案		
7				
8		7. 看護計画発表、評価、まとめ		
9	小児看護に必要な援助技術	1. コミュニケーション技術 1) 発達段階に応じたコミュニケーション 2) 発達に応じた説明と同意 検査時のプレパレーション実施		②
10		2. 安全・安楽を考慮した行動制限と援助技術		
11		1) 乳幼児ベッドの使用法 2) 行動制限用具の使用法、処置時の固定法、点滴・輸液の管理とシーネ固定		
12		3) 検査（腰椎・骨髄穿刺）・処置時（吸引）の援助と固定法		
13		4) 与薬（内服、坐薬、吸入） 水薬の与薬法		

14		3. 小児の救急救命の技術 1) 小児の意識レベル観察 2) 小児の一次救命処置 3) 小児の胸骨圧迫、用手気道確保、 気道内除去法		
15	単位認定試験(45分) まとめ			
評価方法	課題、筆記試験			
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護学 1 小児の発達と看護 ・小児看護学 2 小児看護技術 ・小児看護学 3 小児の疾患と看護 ・系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術 I ・系統看護学講座 別巻 臨床検査 ・看護診断ハンドブック 第12版 ・根拠が分かる 症状別看護過程 		メディカ出版 メディカ出版 メディカ出版 医学書院 医学書院 医学書院 南江堂	
備考				

実習科目	小児看護学実習	対象学生・時期	2年生・前期
		講義時間（単位）	90時間（2）
実習目的	子どもの成長発達や家族への影響を踏まえて、子どもの健康障害及び経過に特徴的な看護を実践する基礎について学ぶ。		
実習目標および内容			
<p><病棟></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ子どもとその家族の特性を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体的・生理的成長発達の観察と評価ができる。 2) 情緒・社会的成長発達の観察と評価ができる。 3) 入院に対する子どもと家族の認識や不安について述べられる。 4) 子どもの健康障害の把握ができる。 2. 健康障害を持つ子どもに必要な看護援助を発達段階との関連で考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康障害や成長発達が日常生活に及ぼす影響を述べられる。 2) 子どものコミュニケーション能力と特徴が述べられる。 3. 子どもと親の双方の健康問題を明確化し、発達段階に合わせて援助できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの特性をふまえた安全・安楽な日常生活の援助ができる。 2) 子どもの成長発達・個別性に応じた遊びやコミュニケーション、気分転換活動の援助ができる。 3) 健康管理や治療・検査・処置に伴う援助が一部実施できる。 4) 子どもの発達段階に応じた安全対策、感染予防の援助ができる。 4. 小児看護における保健・医療・福祉の連携と看護師の役割を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児看護における保健・医療・福祉の連携と看護師の役割が述べられる。 2) 子どもの権利を尊重した看護について述べられる。 5. 看護実践の振り返りを通して自己の課題を明確にできる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 個人およびチームと良好な人間関係を築くことができる。 2) 主体的・効果的に学習できる。 <p><保育園・幼稚園></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの身体的・精神的・社会的な成長発達を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの身体的・精神的・社会的な成長発達が述べられる。 2. 基本的生活習慣の自立に向けた子どもへの援助を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的生活習慣の自立に応じた子どもへの援助が述べられる。 2) 子どもの発達段階に応じたコミュニケーションの実際・遊びの援助ができる。 3. 園と家庭との連携の実際を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 園と家庭との連携の実際が述べられる。 4. 園で行われている安全管理・健康管理を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 園で行われている安全管理・健康管理が述べられる。 5. 学生として主体的・効果的に学習できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学生として主体的・効果的に学習できる。 			
評価方法	評価表による評価		